

特集2

まぶはい編集員 ツアー体験記

コレヒドール島 ～戦跡を巡る～

今年、コロナ感染拡大によるイベント制限も緩和され、8月15日の終戦記念日には、カリラヤの日本庭園にて戦没者慰霊祭が3年ぶりに開催されました。太平洋戦争の激戦地となったフィリピンにて、平和への思いを新たにされた方も多いと思います。

コロナ禍になる以前は、盛んに行われていた戦跡巡りツアー。中でもSMモールオブアジアの近くにあるフェリー乗り場から1時間ほどの位置にあるコレヒドール島の戦跡を巡るツアーは有名です。

今回はその再開されたコレヒドール島ツアーに、まぶはい編集委員 O 氏が参加。その様子をご紹介します。



おたまじゃくし形の小火山島は18世紀初頭のスペイン統治時代、戦略上の拠点として外国船の入国管理が行われていました。コレヒドールという名も、スペイン及びそ

の植民地に存在した地方行政官職の名称である王室代理官の「corregidor」が入国管理や徴税等を行ったことに由来しています。

米西戦争によってフィリピンの統治者がアメリカ合衆国に変わりアメリカ軍の海上要塞となり、その後の太平洋戦争時には米比連合軍と日本軍との最激戦地となった島です。

太平洋戦争当時、米比軍を指揮していたのはダグラス・マッカーサー元帥。日本軍の進撃に遭い、島を離れることになった際に

「I shall return.」という言葉を残し撤退しました

が、その言葉通り、数か月後に再び上陸し島を再奪還、日本軍はその後敗戦への道を歩むことになりました。



コレヒドール島は現在、観光ツアーが組まれておりスペイン統治時代の灯台(再建されたもの)や第二次大戦中の大砲、巨大なマリントンネル、日本人墓地等を観光することができます。

早朝7時頃出港し、島内を専用のトラムに乗って島内を観光、夕方4時頃にマニラへ戻ります。

—————Trip memo—————

島内には アメリカ兵のために映画館、ゴルフコースやテニスコート、プールなどの娯楽施設があったそうです。建造物に使われたコンクリートは日本の浅野セメント製。戦闘のダメージと経年劣化によりどの建物も痛みが激しいため、中には入れませんが近くから見る事が可能です。



↑ 映画館が完備されていた兵舎



Trip memo

こちらは米軍が司令部や、防空壕、野戦病院として使用していた「マリンタ・トンネル」。現在も中を歩くことが可能です。

中央に太いトンネルが1本通っており、機能別にいくつかの小さなトンネルが枝分かれしている作りでした。米軍の兵站力の凄さを痛感します。



Trip memo

砲台を囲む壁の穴は銃撃戦の痕跡。このように数多くの巨大な砲台がこの島には残されています。

非常に大きく海上要塞としての機能に圧倒されました。戦後、鉄を盗もうとした人もいますがあまりの重さに持ち出すこともできなかったそうです。



日本人墓地

現在は日本政府ではなく有志により整備されているそうです。

—Trip memo—

島内にある日本人墓地は長い間所在不明となっていたということですが、「日本人墓地」という立札と記念写真を撮っている1枚の古い写真が蚤の市で発見されたことから、背景の島の形などで墓地の場所が明らかになり、荒れ果ててしまっていた墓地を整えることができたそうです。

日本人墓地のエリアは非常に静かで、広い空と地平線を望む美しい海が広がっています。こちらで眠りにつく方々の魂が永遠に平穏であることを願うばかりです。

今回コレヒドール島等を訪れ、平和な時代にフィリピンで暮らしている自分は日本人として何ができるか、など改めて考えさせられたツアーとなりました。 (まぶはい編集員:0)

ツアーを体験されたい方は、こちら↓

Corregidor Foundation Inc.

Ms. Melody Bondoc / Sales & Marketing Officer

Tel: +63-2-8823-3281

website: www.corregidorisland.com.ph

